



岩村の歴史 シリーズ(Ⅱ)

シリーズ(Ⅰ)では、岩村の地名の由来や、古代から中世までの岩村郷内を構成する村名について述べた。

近世の江戸期から明治初期までは、現在とほぼ同じで金地・包末・神通寺・堀ノ内・福田・蔵福寺島・京田(立石を含む)・岩次・松本の九か村で構成されていた。

る。この九か村の石高を合計すると二七一七石余である。福田村の東に石高は書いていないが、船渡村という小村があったという記録が残り、明治二十二年からは、福田・船渡が一緒にになり福船と標記されるようになっていた。

京田村はしばしば経田村と標記されており、岩次村は江戸初期までは徳松村と称していた。明治二十二年から、昭和三十四年南国市に分村合併するまで、右の九か村が九つの大字となっており、岩村を構成した。

いようである。明治初期の主要農作物は、米、裸麦、蕎麦、胡瓜、真綿等。特に胡瓜、真綿は岩村の特産物であったようである。

昭和三十四年十月一日、堀ノ内・包末・金地・福船が南国市発足と共に南国市となり、松本・神通寺・岩次、京田(立石含む)蔵福寺島(後年山田町をはずれ南国市となる)は土佐山田町に合併した。

岩村の氏神である神奈地祇神社の前にあった、岩村小学校(岩村の中心地)の所までが土佐山田町となり、つまり南国市の北限となった。

南国市は香長村(旧、日章・前浜・三和・十市・稲生・大篠)、後免町(旧、上倉・瓶岩・久礼田・国府・長岡・旧後免町)、岡豊町、野田村、(介良村内の伊達野地区)それに岩村の計五町村の合併によるものである。

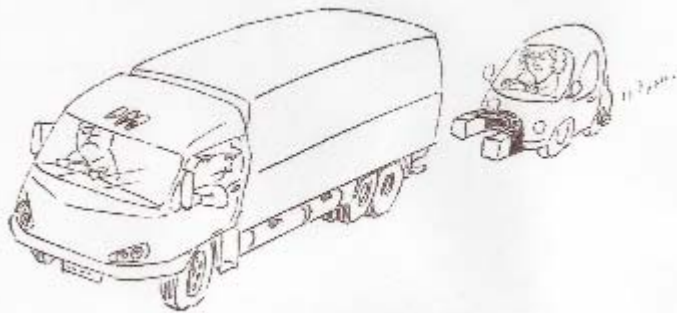
大盛況だった 敬老会

以下次号
藤本真事さん
寄稿

去る九月二十七日



漫画家 岩本タケオさん



いやな省エネ車だぜ・・・

それまでに既に合併によって強大になっていた香長村や後免町に小さな岩村等が吸収されてしまった様な、「引け目」を行政上受けることのないよう、合併条件として特に「合体合併」と言う言葉を用いて、五町村長が連署押印している。南国市発足後はや四三年が経った。

次号でお知らせします。
岩村社会福祉協議会